地域福祉コーディネーター

たとえば



こんなお悩みありませんか

- ☐ 近所に気になる人・心配な人がいる
- ☐ どこに相談したらよいかわからない
- ☐ 一歩外に出たいけど、一人では不安
- ☐ 一人暮らしで頼れる人が近くにいない
- ☐ 友達がいない、たまには誰かと話をしたい



「やりたい」もご相談ください

- ☐ 困っている人を助けたい。
- ☐ 地域のために何かしたい。
- ☐ 空き時間を活用したい。
- ☐ 私でもできることはあるだろうか？

ひとつでも当てはまったら
地域福祉コーディネーターに
ご相談ください。

連絡・問い合わせ先

大田区社会福祉協議会
おおた地域共生ボランティアセンター
地域共生担当（地域福祉コーディネーター）
〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-49-2
TEL：03-3736-2266
FAX：03-3736-5590
E-mail：kyousei@ota-shakyo.jp



JR蒲田駅西口より徒歩5分

地域福祉コーディネーターは、希望があれば
住んでいる地域（大森・調布・蒲田・糀谷羽田）に、
訪問します。



大田区社協では地域福祉の更なる充実を図るために、社協会員を募集しています。
詳しくは大田区社協HPをご覧ください。
より多くの方のお力添えをお待ちしています。



くわしくはこちら

悩みごと やりたいこと 一緒にかんがえます



大田区・大田区社会福祉協議会

困っていること 悩んでいること
やりたいこと 相談できます

相談方法

電話　来所
訪問　メール

くわしくはこちら

うけとめる
一緒に考える

だれでも、どんなことでも
様々な関係者や専門機関とともに
相談を受けます。



たすけあいの
仕組みをつくる

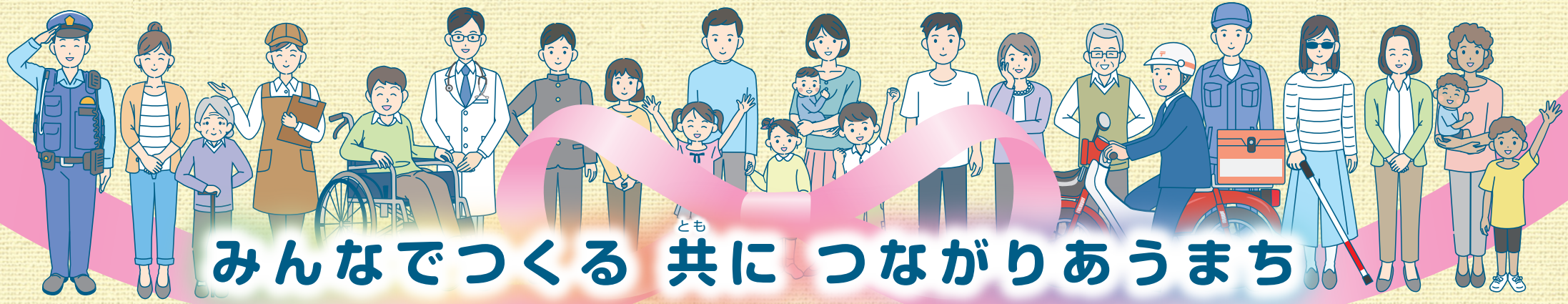
くらしの困りごとの解決や
「こんなまちにしたい」など
話し合う場をつくります。



かかわりをつくる

だれもが、役割や生きがいをもって
自分らしく暮らせるように、
地域とかかわるきっかけをつくります。





みんなでつくる 共に つながりあうまち

令和7年度

大田区地域福祉コーディネーター活動報告書

～「つながり」をむすび、誰も取り残さない
地域共生社会の実現に向けて ～

令和８（2026）年３月

大田区・社会福祉法人大田区社会福祉協議会

Ⅰ．地域福祉コーディネーターの役割

地域福祉コーディネーター（地域福祉Co）は、

うけとめる・一緒に考える　だれでも、どんなことでも様々な関係者や専門機関とともに相談を受けます。

かかわりをつくる　だれもが、役割や生きがいをもって自分らしく暮らせるように、地域とかかわるきっかけをつくります。

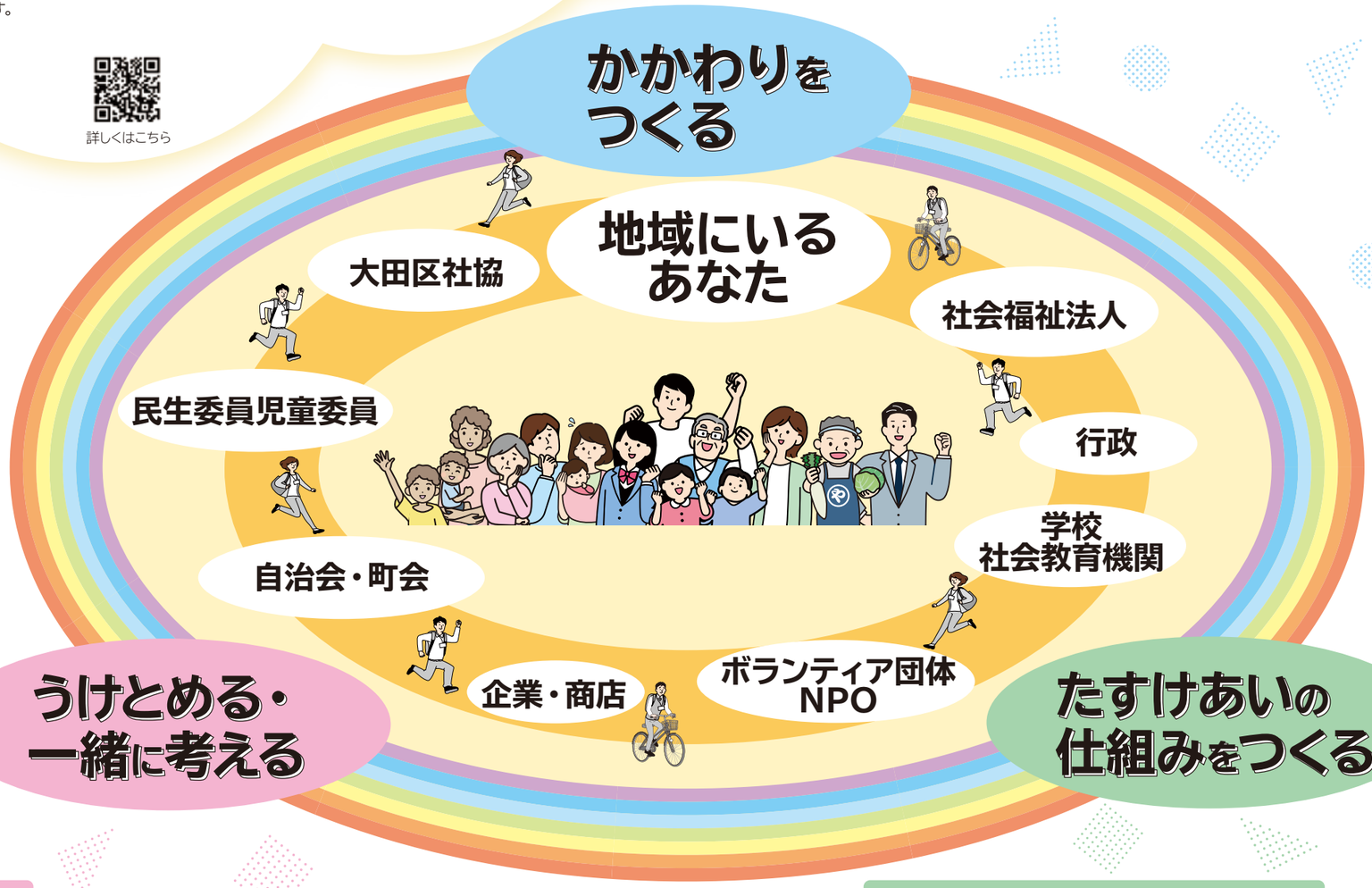
たすけあいの仕組みをつくる　くらしの困りごとの解決や「こんなまちにしたい」など話し合う場をつくります。

この専門性を活かして、地域福祉コーディネーターは、大田区の重層的支援体制整備事業における「参加支援事業」と「地域づくり支援事業」にあたる「地域福祉コーディネート事業」を実施しています。

詳しくはこちら



地域福祉コーディネーター（地域福祉Co）



かかわりをつくる

地域には、社会との接点が途切れてしまい、孤立している方が少なくありません。生活上の困りごとが解決したとしても、自分らしい豊かな生活を送るためには、社会とのつながりが重要です。

様々な事情で社会から孤立している方を、居場所やボランティア活動等につなぐことで、社会参加を支援します。また、本人の状況や求めに応じて、新たな活躍の場づくりにも取り組みます。



みんなの居場所（徳持会館）



調布地域にお住まいの方による
イラスト提供



自宅訪問をする地域福祉Co

うけとめる・一緒に考える

「高齢」「障がい」「こども」「生活困窮」などの分野にかかわらず、個人や世帯が抱える課題をまるごとうけとめ、課題解決に向けて、身近な場で多様な主体が協力し、一緒に考えます。そして、支援が届きにくい人には直接その人のもとへ出向きます。

また、解決が難しい複雑化・多様化した課題には、つながり続ける（伴走型）支援を行うことで、孤独・孤立を防ぎます。



電話対応をしている地域福祉Co

たすけあいの仕組みをつくる

複雑化・多様化する福祉課題は、今ある制度やひとつの団体だけでは解決が難しいことがあります。

地域の皆さんや自治会・町会、民生委員児童委員や社会福祉法人、行政などで自主的なたすけあいの仕組みをつくり、それぞれの強みを活かして課題解決に取り組みます。



池上徳持南プラットフォーム



大森東地区連携交流会

2. 取組事例　地域福祉ネットワークの推進

地域福祉におけるネットワークとは、「地域の住民同士や、専門職同士のつながり」を指します。地域には、住民の皆さんをはじめ、自治会・町会や民生委員児童委員、ボランティア、学校関係者、行政、社会福祉法人、企業など、様々な立場の方が同じ地域で暮らし、働いています。そんな多様な立場の方がゆるやかにつながり、ともに支え合える関係を築くためには、きめ細やかなネットワークが必要になります。

ネットワークの種類を大きく3つに整理しました（右図）。いずれのネットワークも誰もが安心して暮らせる地域づくりに欠かせないものです。また、既存のつながりを土台として、新たな取組や協働が生まれることもあります。

調布地域　住民のネットワーク

千束地区「Cafeひなたぼっこ」から生まれる ゆるやかなつながりとひろがり

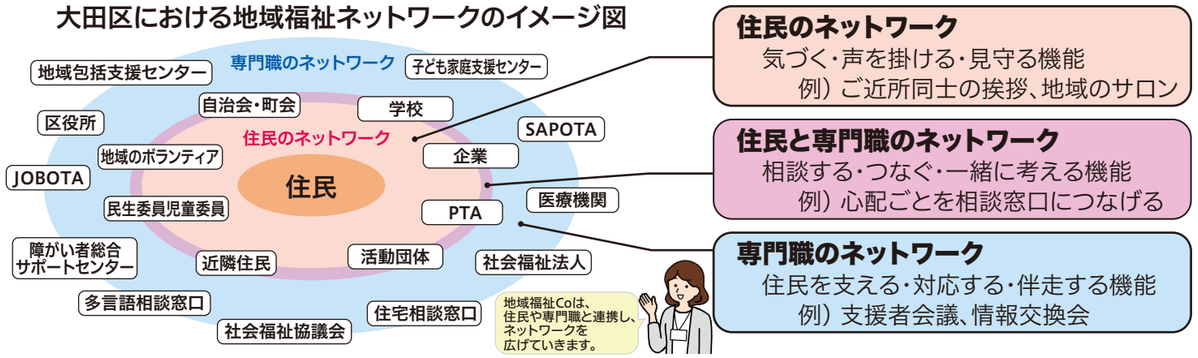
千束地区にある「Cafeひなたぼっこ（以下「カフェ」）」は、だれでもふらっと来て、ハンドドリップコーヒーなどを飲みながら楽しくおしゃべりできる居場所です。シニアステーション千束で月１回開催し、年齢を問わず、どなたでも参加が可能です。このカフェは、千束地区民生委員児童委員の方々が、令和５年度に立ち上げました。初めてでも馴染みやすく、どこかほっとする温かい雰囲気で、出会った方が自然と友達同士になったり、新しい活動を一緒に始めたり、この場を起点に地域のネットワークが広がっています。初めは参加者だった方が特技を活かし、ボランティアとして活躍していることも特徴です。



地域福祉Coの関わりのポイント

- 実行委員の皆さんの思いを大切にし、カフェ当日以外にも、実行委員会や反省会に参加し、一緒に考えること
- 参加者と交流する中で、自然に困りごとや「何かやってみたい」などの気持ちをうけとめ、必要な相談窓口につなげたり、活躍の場をつくること
- 実行委員の皆さんだけではささえきれない相談ごとに対し、地域包括支援センター、シニアステーションと協力し共に取り組むこと

大田区における地域福祉ネットワークのイメージ図



糀谷・羽田地域　専門職のネットワーク

大森東地区　医療連携相談会「秋のふらっと健康ひろば」

大森東地区では令和６年度から、東京労災病院、大田病院、京浜病院と地域包括支援センター大森東、行政、地域福祉Coで定例会を重ねてきました。話し合いの中で「地域に身近な医療の相談ができる病院が少ない」という地域課題を共有し、医療連携相談会を開催することになりました。

今年度は、住民の皆さんにとって、より身近な場となるように名称を「秋のふらっと健康ひろば」とし、内容も相談だけでなく、企業等による脳トレや健康測定などを加えました。

当日は昨年の２倍の方が参加し、「専門職の方に直接相談できて、とても安心しました」「自分の健康について考える、良い機会になりました」という声をいただきました。多様な専門職が連携し、地域に出向くことで、直接住民の相談や声を聞くことができました。

今後は予防講座や相談会に参加できない方へのアウトリーチができる仕組みづくりに取り組みます。また大森東地区には、この他にも様々なネットワークがあり、地域課題の解決に向けて住民や関係機関との日頃からの連携を大切にしています。



「秋のふらっと健康ひろば」のメンバー



当日のチラシ

地域福祉Coの関わりのポイント

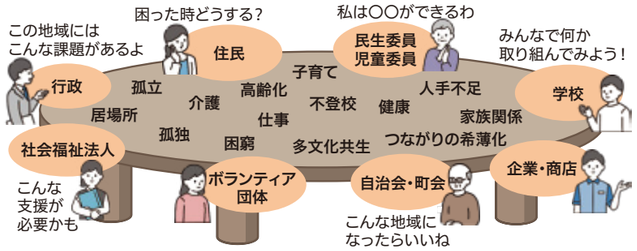
- 積極的に地域へ出向き、住民の皆さんと地域の状況や課題について共に考え、解決に向けて、住民の皆さんが行動できるように働きかけること
- 多様な主体（住民、当事者、活動団体、関係機関、企業等）と顔の見える関係になり、地域課題等を共有すること
- 普段から連携できるネットワークを築き、住民の皆さんが安心して活動できる基盤をつくること

まとめ

「住民のネットワーク」は、住民同士がつながり声をかけあうことで、小さな変化に気づき、助け合いながら安心・安全な地域をつくることができます。「専門職のネットワーク」は、専門職が分野を超えて連携して、制度の狭間にある方や複雑化・多様化した課題を抱える世帯などをサポートします。それぞれの立場で、住民や専門職等がつながりあい、誰ひとり取り残さず、誰もが幸せに過ごせる地域を目指します。

3．取組事例　たすけあいプラットフォームの活動

「たすけあいプラットフォーム（以下「PF」）」は、住民や学校、企業、福祉施設など、多様な人が集まり、ひとりの力だけでは解決が難しい地域の困りごとについて話し合い、みんなでできることを考え、課題解決に向けて主体的に取り組む場です。



地域課題の解決には、そこに暮らす皆さんの視点が欠かせません。

PFに参加している一人ひとりの「やってみたい」「これが必要だ」という思いを大切に、地域福祉Coが、誰もが無理なく、楽しみながら継続できる活動となるよう伴走しています。

地域福祉Coは、住民一人ひとりの思いを大切にしながら、共に歩み、対話を積み重ねていく場づくりを地域の皆さんと進めていきます。

蒲田地域　日常生活圏域(※1)で展開する　たすけあいプラットフォーム

六郷地区

今年度は、居場所の立ち上げを目標に「六郷に必要な居場所とは何か」という話し合いからスタートしました。

話し合いでは、六郷地区の現状確認や他地区における居場所事例の共有、自分たちにできることのアイデア出しなどを行いました。参加者からは、「住民であれば誰でも参加できるプロジェクトにしていきたい」「すでに多世代が集まっている場や既存の取組から始めてみてはどうか」といった声が挙がりました。


六郷の課題をふせんに書き出し話し合っている様子

矢口地区

今年度は、活動コンセプトからPFの周知方法に至るまで参加者の皆さんと一緒に考え、取組を進めてきました。

毎年参加しているいずみえん納涼祭では、「こどもだけではなく、高齢者や障がい者を含めてみんなで一緒にできることを考えた方が良いのではないか」「困りごとが深刻化する前に相談できる場を知らせたい」などの参加者の共通の思いから、一人ひとり手作りの自己紹介カードを作成し「矢口PFの参加者ができること・得意なこと」を住民の皆さんに周知しました。


いずみえん納涼祭当日の様子

蒲田西地区

これまで話し合ってきた「商店街を盛り上げたい」「蒲田西地区に多い外国籍の方なども含め、誰もが一緒に楽しめる機会を作りたい」「地域の福祉施設のことをもっと知ってもらいたい」という思いを実現するために、西蒲田商店街にて「おなづかみんなのおまつり」を開催しました。イベント名は、誰もが楽しめるように「みんなの」と名付け、こどもや外国籍の方も読めるようにひらがなで表記しました。趣旨に賛同した参加者が他の団体に協力を募り、多くの団体が参加してくれました。


おなづかみんなのおまつり当日の様子

地域福祉Coの関わりのポイント

- 参加者の声を反映させた活動を行うこと
- 役職や所属の違いを活かし、得意なことを引き出すこと
- 「地域の力を活かす」という視点を持ち続けること

大森地域　小地域圏域(※2)で展開する　たすけあいプラットフォーム



池上徳持南PFの範囲（池上六～八丁目、東矢口一丁目）

このPFは令和６年５月、池上六丁目にある重度心身障害者グループホーム「メゾン・ド・ファミーユ」の代表から「地域とのつながりをつくりたい」という相談から始まりました。この相談を受け、グループホームの代表と、町会長や民生委員児童委員、団体など住民の皆さんと話し合い、池上徳持南PFを発足しました。参加者全員が共通した地域を思い描けるように、参加者や活動の範囲を池上徳持南町会の区域に設定しました。

話し合いの場を通じて、「居場所づくり」「新たな住民とのつながりづくり」「防災・減災」という3つの地域課題を共有し、課題解決に取り組んでいます。

「居場所づくり」では、徳持会館と池上福祉園の2か所を拠点に実施しています。これらの活動を通じて、住民同士が自然に出会い、障がいの有無を問わない交流を深めています。

「新たな住民とのつながりづくり」では、文化芸術分野の団体と連携し、アートを媒体とした活動を通して、住民同士が出会うきっかけをつくっています。

「防災・減災」では、災害時に支援を必要とする方と、日頃からどのような取組が可能かを検討しています。


誰もが気軽にふらっと立ち寄る「みんなの居場所」（徳持会館）

地域の皆さんの声

- 定年退職後「地元に貢献したい」と思っていたが、それが実現できた。人との付き合いがあれば、何かの時にちょっとしたことをお願いできるのではないか。
- 地域の中でつながりが増えることは心強いし、楽しみが生まれる場所になると思う。
- 色々な人との関わりができて、楽しんでやっている。
- 組織にとらわれず、気持ちのある人が集まり、その気持ちを広げていけるとよい。今の活動を大事にして、無理なく続けていきたい。

地域福祉Coの関わりのポイント

- 住民の皆さんは生活している地域の専門家であり、共に暮らしの中の小さな変化や課題に向きあい、地域づくりをすすめること
- PFの活動範囲は、住民同士が同じ生活圏として意識を共有できる範囲にすること
- 多様な方が対等な立場で話し合い、無理のない範囲で楽しく活動できるようにすること


池上徳持南PFでの会議

まとめ

蒲田地区では「日常生活圏域（※1）」、大森地区では「小地域圏域（※2）」と範囲が異なるPFを展開しています。いずれの活動においても、住民の皆さんを中心に「新たな出会い」や「豊かなつながり」が生まれています。

人と人とのつながりが広がることで、心の支えや日々の楽しみ、そして互いにたすけあえる関係が育まれています。誰もが安心して自分らしく暮らせる地域を目指し、楽しみながら自分たちのペースで楽しく続けられるPF活動を広げていきます。

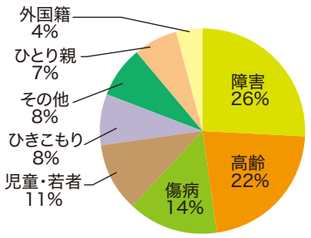
※1　日常生活圏域・・・大田区では18の特別出張所の管轄区域を指しています。
※2　小地域圏域・・・自治会・町会や小中学校の通学区域などを指しています。

4. 統計

令和7年度に地域福祉Coが対応した個別支援・地域支援より算出

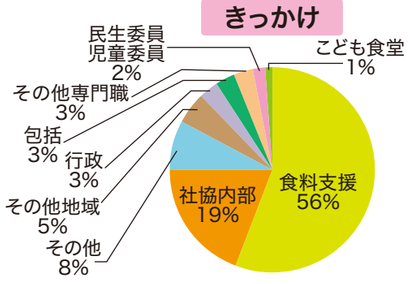
個別支援 ～うけとめる・一緒に考える支援～

世帯の状態



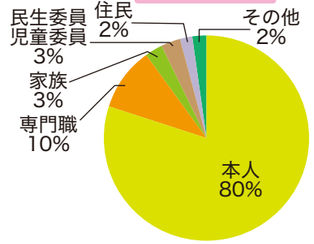
世帯の状態は、障害が26%と最も多く、高齢が22%と続いています。

きっかけ



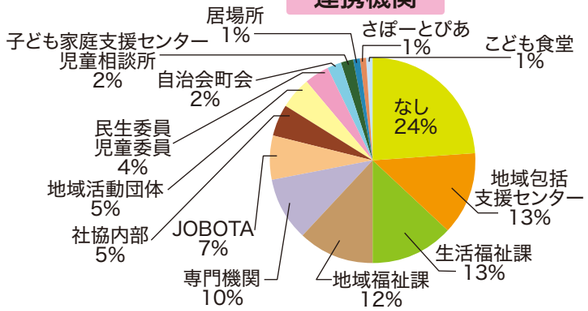
きっかけは社協食料支援が56%と最も多く、続いて社協内部が19%となっています。

相談者



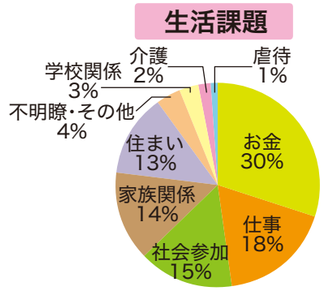
相談者は本人からが80%と最も多く、専門職からが10%と続いています。

連携機関



食料支援などの単発相談や連携を望まない「なし」が24%と最も多く、生活福祉課と地域包括支援センターが13%と続いています。

生活課題

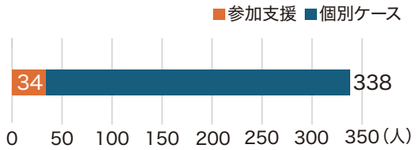


相談者数
（全338人）

生活課題は、お金が30%と最も多く、仕事が18%、社会参加が15%と続いています。

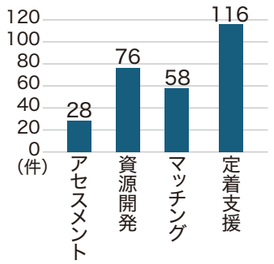
参加支援 ～かかわりをつくる支援～

参加支援ケース数



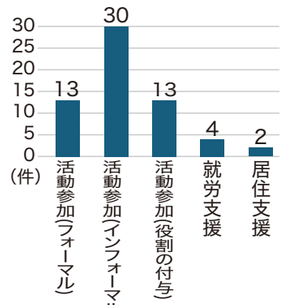
参加支援は、社会との接点が途切れてしまった方などに対して、地域や社会とのつながりを回復できるようにする取組です。本人の希望の聞き取り（アセスメント）から参加の場探しや場の創出（資源開発）、場のつなぎ（マッチング）と継続的に参加できるように支援（定着支援）します。

参加支援の状態



参加支援の状態は定着支援が最も多く、次に資源開発が続いています。

マッチングの内容



マッチングは、地域の自主グループ等（インフォーマル）のつなぎ支援が最も多くなっています。

個別支援・参加支援まとめ

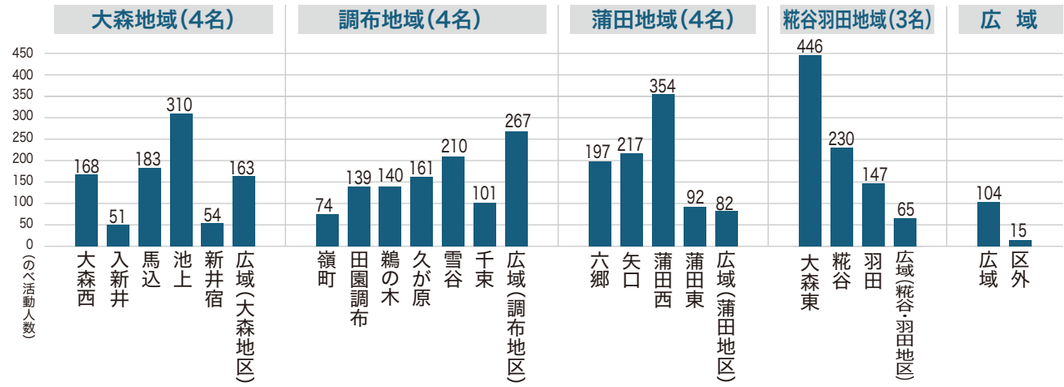
令和７年度の個別支援の相談者数は338人、活動件数は2,061件です。主な相談者は高齢・障害の方で仕事、住まい、金銭に関わる生活課題がある方が、社協の食料支援をきっかけにつながり、生活福祉課や地域包括支援センターのほか関係機関へつないでいきます。参加支援では、地域の自主グループ等へのつなぎ支援と継続的に参加できるようにサポートしています。

地域支援 ～たすけあいの仕組みをつくる支援～

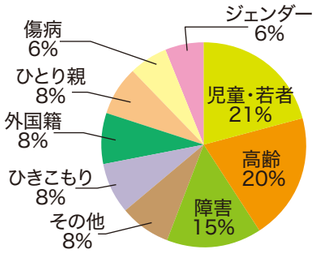
大森地域では、たすけあいプラットフォーム（以下「PF」）の開催により、池上地区の件数が多くなっています。調布地域では、住民や社会福祉法人との取組を通し、６地区を広域的にアプローチしています。蒲田地域は、蒲田西PFの取組みでイベントを開催したため、蒲田西地区が最も多くなっています。糀谷・羽田地域では、緑華園トークサロン、医療地域連携交流会などの定例会の実施のほか、障がい理解啓発活動等により大森東地区が最も件数の多い地域となっています。

地区名（配置人数）

地域福祉Coの活動人数
（全3,970人）

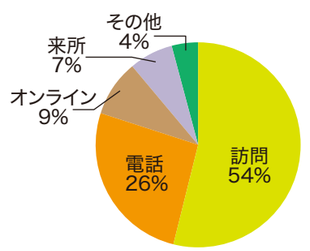


支援対象の属性



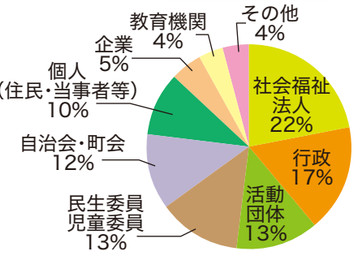
支援対象の属性は、児童・若者が21%と最も多く、高齢20%、障害が15%と続いています。

地域支援の方法



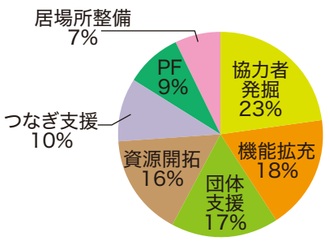
地域支援の方法は、訪問が54%と最も多く、電話が26%と続いています。

関係者の属性



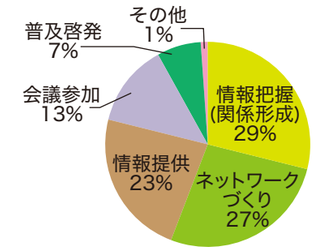
関係者の属性は、社会福祉法人が22%と最も多く、行政が17%、活動団体が13%と続いています。

活動内容



活動内容は、協力者発掘が23%と最も多く、機能拡充が18%、団体支援は17%、資源開拓は16%と続いてます。

地域支援の分類



地域支援の分類は、情報把握（関係形成）が29%、続いてネットワークづくりが27%、情報提供が23%となっています。

活動件数
（全2,405件）

地域支援まとめ

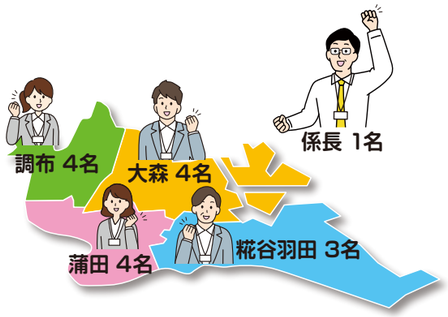
令和７年度の地域支援に関する活動件数は、2,405件です。主な支援の対象は「児童・若者」が約２割と最も多く、次いで「高齢」、「障害」です。また、主な支援の内容は、行政や地域の関係機関、活動団体などとの関係形成を目的とした情報把握と情報提供、ネットワークづくりを合わせると約8割で、自治会・町会、民生委員児童委員、社会福祉法人、活動団体などと共に、たすけあいの仕組みづくりを行っています。

5．まとめ

地域福祉Coの活動のこれまで

平成29年に、大田区社協に地域福祉Coが配置されました。それから約9年が経過し、令和8年度で10年目という節目を迎えます。

当初は4名からスタートし、現在は１名の係長と15名の地域福祉Coを配置し、体制を拡充してきました。これまでの間、コロナ禍を経て、世の中の生活様式の変化や施策の方向性に変化がありました。大田区社協では、複雑化・複合化した地域生活課題に対応するため包括的な支援体制を築くことを目的とした重層的支援体制整備事業の一部を区から受託し、地域福祉の向上に取り組んでまいりました。



地域福祉Coとして日々、住民の皆さんと関わる中で、その時々のニーズに合わせて一緒に考え、活動し、時には厳しい意見も受けながら目の前の課題に取り組んできた９年間だったと思います。

コロナ禍においては、社会経済活動が一斉に停止し生活困窮の相談が急増するなど深刻な影響がありましたが、その一方で、地域では「自分たちにできることをできるだけ」を合言葉に柔軟な対応が行われ、活動が大きく停滞することはありませんでした。地域福祉Coは、住民や専門職の方と共にこども食堂や多世代型サロン、フードパントリー等の立ち上げや継続の支援を中心に行いました。その結果、今年度大田区社協が助成している団体は194団体、こども食堂連絡会加入数は72団体にのぼり、コロナ禍前に比べ大幅に増加しています。今なお相談の多くを生活困窮が占めている事実に影響の大きさが伺えますが、この時期の活動支援が現在の地域とのつながりの基盤となっています。

令和3年に、厚生労働省が「重層的支援体制整備事業」の施策を展開し、大田区では令和５年度に本格実施となりました。それに伴い大田区社協も一部事業を受託したことから地域福祉Coの増員がなされ、現在の体制となりました。

人員の増加を受けて、より多くの地域に出向くことが可能となり、これまでできなかった小地域圏域を対象とした地域づくりや、たすけあいプラットフォーム事業の拡大、個別の困りごとを抱えた方で社会から孤立している方を社会とつなぐ「参加支援」の活動を新たに行いました。

これらの事業を行うために、これまで以上に地域との関わりを増やすと同時に、地域活動を支える専門職とのネットワークの構築が必要となりました。そのため地域福祉Coの重点活動は、居場所や団体の立ち上げ支援から、住民や団体同士をつなぐネットワークづくりの活動へ変化してきました。各地域の大小様々なネットワークに関わり、住民同士や専門職、時には行政につないでいます。



コロナ禍で行われた接触を伴わないフードドライブとおすそわけ会の活動

地域福祉Coのこれから

地域福祉Coが令和７年度に重点的に取り組んだことは、①住民の活動を支える専門職のネットワークづくり②住民が地域課題について話し合い、解決に向けて活動する「たすけあいプラットフォーム」の拡大です。たすけあいプラットフォームは、現在５つの地域で実施しており、他の地域でも立ち上げの準備を行っています。住民同士で集まり、その地域のたすけあい活動に無理なく楽しく参加できるよう地域福祉Coがサポートしています。

また、このような住民の活動を支えるため、専門職のネットワークづくりを地域ごとに進めています。地域包括支援センターや特別出張所、社会福祉法人、医療機関、企業など大田区社協のネットワークを活かして多様な主体と連携し、専門職と住民との連携を図っています。また、今後の地域を支えていくためには、これまで福祉とはあまり縁のなかった分野の方との連携や、既存の地域福祉の人材とのゆるやかな合流が必要です。そのためにも、地域福祉Coは多様な人と人をつなぎ、その力が地域に還元されるよう取組みます。

おおた地域福祉フォーラム
～ つながりを力に。地域みんなで築く共生社会の未来（かたち） ～

令和８年２月８日（日）に「おおた地域福祉フォーラム」を開催いたしました。本フォーラムは、年に一度の地域福祉Coの活動報告と、住民の皆さんと共に大田区の地域福祉について考える機会として実施しています。

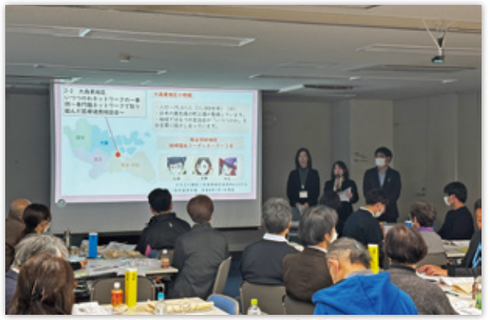
今年度は、同志社大学の永田 祐教授をお招きし、大田区の地域共生社会の未来（かたち）について、ご講演いただきました。そのなかで、地域づくりは「郷土料理」であり、先進的な事例や発想も大切だけれど、その地域にどんな素材（人財）があるのかを知っていることが大切で、福祉の枠に捉われない地域の中の「宝さがし」である、とのお話がありました。


同志社大学
永田 祐 教授

地域福祉Coからは「ネットワークづくり」と「たすけあいプラットフォーム」をテーマに、様々な地域の事例を報告しました。実際の活動の様子を動画で紹介しながら、活動に携わっている方に、活動の意義や考え方、気持ちの変化についてお話しいただきました。

その後のグループワークでは、登壇者、地域福祉Coを交えて大田区の地域福祉のこれからについて、どのグループでも活発な議論が展開されました。

本フォーラム全体を通じてキーワードとなっていたのは「楽しさ」でした。参加者も活動者も楽しく活動することが、人と人をむすび、地域福祉の推進につながる。そんな地域福祉の原点について考える機会となりました。


地域福祉Coによる事例報告


会場の様子

↑当日の様子は
こちらから

令和７年度
大田区地域福祉コーディネーター活動報告書
令和8（2026）年3月

【問い合わせ先】
社会福祉法人　大田区社会福祉協議会
〒144-0051
東京都大田区西蒲田7-49-2　大田区社会福祉センター
TEL　03-3736-2266
FAX　03-3736-5590
E-MAIL　kyousei@ota-shakyo.jp

HP

X（旧Twitter）